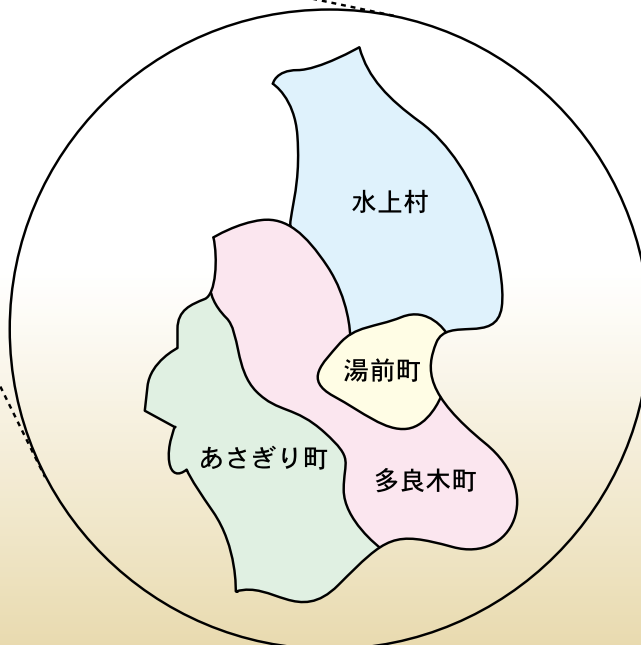




上球磨消防組合 40年のあゆみ

40th
anniversary



熊本県・上球磨消防組合



上球磨消防組合

組合長 松 本 照 彦

上球磨消防組合は、昭和49年4月に常備消防組合として発足し、同年10月から実働を開始しました。それから40年という記念すべき節目を迎えることができますのも、構成町村及び消防団並びに地域住民の皆様の温かい御理解と御支援の賜と深く感謝申し上げます。また、今日に至る礎を築かれました先輩各位には、深甚なる敬意を表する次第であります。

当初、8ヶ町村で構成し発足した当組合も、平成15年に中球磨5ヶ町村が合併し、あさぎり町が誕生しました。現在では3町1村人口約3万3千人と人口減少、高齢化の波は、当地域にも例外なく押し寄せて来ています。

この間、東分署の設置をはじめ、消防資機材の充実強化と職員の資質の向上を図りながら、住民の身体、生命及び財産を守るという消防の使命達成のため邁進して参りました。

近年では、地球温暖化が原因と考えられる異常気象による自然災害が多発し、甚大な被害をもたらしています。また、平成23年3月に発生した東日本大震災では、津波被害はもとより、原発による放射能被害が発生するなど、消防においても、これまで経験したことのない災害に対する備えが必要となってきました。

こうした環境変化の中、組合創立40周年を契機として、常備消防の重大な使命を再認識し、今後尚一層の消防体制の充実強化と研鑽を重ね、地域住民の皆様の負託に応える所存でございます。今後とも、皆様の変わらぬ御支援と御協力をお願い申し上げ御挨拶いたします。



上球磨消防組合議会

議長 小見田 和 行

この度、上球磨消防組合が発足40周年を迎えるにあたり、一言 御挨拶申し上げます。

昭和49年に上球磨8ヵ町村の消防、防災、救急業務の拠点として発足し、40周年を迎える事となりました。その間、地域住民の生命財産を守り、「安全安心の地域づくり」に貢献されてきました。

ここに地域の皆様の御理解と歴代の職員、関係者の方々に深甚なる敬意と感謝を表すものであります。

さて、当消防組合も組合庁舎の耐震化、消防力強化に向けた広域化など、当面の課題も抱えながら近年の異常気象による豪雨対策、南海トラフ巨大地震への備えも早急な取り組みが望まれるところです。

高齢化、人口減少への懸念を抱える上球磨地域において「住みたい、住んで良かった。」とっていただける地域づくりに医療体制の充実と合わせ消防の果たす役割は今後、増える事が予想されます。

当組合議員としましては住民の皆様の上球磨消防組合への期待を的確に反映すべく政策提言、議論を重ねていく所存でございますので、より一層の御指導、御鞭撻をお願い致し御挨拶と致します。



上球磨消防組合消防本部

消防長 澤 田 光 徳

昭和49年4月に発足し、同年10月から職員35名、車両4台にて実働を開始した上球磨消防組合は、40年目の節目を迎えました。これまで、関係各位の深甚なる御理解と地域の皆様の温かい御支援を賜り、1本部、1署、1分署、職員65名体制となるなど、消防力の充実強化を図ることができました。このことに対し心から感謝申し上げます。

さて、近年では、台風、竜巻、豪雨など全国各地で大きな被害をもたらした自然災害や有床診療所、福祉施設での火災などで尊い人命や貴重な財産が奪われるなど、消防を取り巻く環境は複雑多様化してきております。併せて、高齢化が進む中で救急件数は年々増加し、消防に対する期待はますます高まっていると感じております、

このような中、地域の皆様の安全、安心を守るべく、職員一同更に研鑽を重ね、関係機関と連携を図り、日々業務に取り組んでいく所存です。今後とも、当組合への尚一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

沿革

年 月	消 防 組 合 の 沿 革	社 会 の 出 来 事
4 8 1 0	上球磨消防組合設立委員会 政令指定申請	11 熊本太陽デパート火災 (死者103人)
4 9 2 4	消防組合設立知事認可 上球磨消防組合設立 組 合 長 恒松良一郎 (多良木町長) 組合議長 笹淵 弘之 (上村議会) 収 入 役 山下 譲 (多良木町収入役) 監査委員 西 孝一郎 (多良木町・学識) 星原 秀雄 (岡原村議会) 消防本部発足 旧多良木高等学校跡地仮事務所設置 職員 14 名採用	
5	消防本部へ指令車配置 	5 ヒョウが上球磨を直撃 (農作物に被害)
6 7	初代消防長に赤池末夫氏就任 職員 21 名採用 消防署に救急車及びポンプ車配置  	
8	消防署に水槽付ポンプ車配置 	
9	消防庁舎落成 消防無線基地局 1 ・ 移動局 6 開局 	11 球磨商業高校校舎落成
5 0 3	日本損害保険協会から救急車寄贈 消防署へ救急 2 号として配置 	
5 1 6	農協共済から救急車寄贈 消防署へ救急 3 号として配置  	

年 月		消 防 組 合 の 沿 革	社 会 の 出 来 事
5 2	2	組合長に那須始氏就任	
	1 1	消防無線機木中継局完成	
	1 2	林野火災用小型ポンプ及び 可搬式散水装置整備 救助工作車配備	
			
5 3	2	熊本県、営林局、上球磨消防組合主催林野火災空中消火訓練実施	1 伊豆大島近海地震(M7.0) (死 者 25名 負傷者 178名)
	4	気象観測機を設置し気象観測を開始	6 宮城県沖地震(M7.4) (死 者 27名 負傷者 10,962名)
			
			
5 4	8	庁舎増築工事落成	7 東名高速道路日本坂 トンネル火災 (死 者 7名 焼失車両189台)
5 5	8	一斉指令及びテレホンサービス装置導入 少年消防クラブ合宿訓練 (46 名)	8 静岡駅前地下街ガス 爆発 (死 者 14名 負傷者 199名)
			11 川治温泉ホテル火災 (死 者 45名 負傷者 27名)
			
5 6	2	組合長に久保田兵吾氏就任	
	6	訓練場用地取得 (3,142㎡)	
5 7	7	多良木自動車学園水難救助 孤立した 55 名救助	2 ホテルニュージャパン 火災 (死者31名 負傷者28名)
			4 岡原村役場庁舎落成
			6 水上村役場庁舎落成
	1 1	車庫及び資料室建設工事完成	11 横谷トンネル開通
5 8	3	救急 1 号車更新	1 清願寺ダム完工
			2 羽田沖に日航機墜落 (死者24名)
			3 免田町役場庁舎落成
	9	指令車更新	5 日本海中部地震 (死者不明者14名)

年 月	消 防 組 合 の 沿 革	社 会 の 出 来 事
5 9 9	上球磨消防組合発足 10 周年記念式典 (消防署・消防団連合会運動会) 	3 グリコ事件 6 五木村竹の川でがけ崩れ15名死亡
6 0 8	岩下兄弟合資会社から指導広報車寄贈配備 財団法人日本防火協会から救急車寄贈 救急 2 号車更新  	8 日航ジャンボ機墜落 (死 者 520名 負傷者 4 名)
6 1 4 6	消防救急業務相互応援協定締結 (宮崎県小林市、えびの市、須木村及び西諸広域消防組合と多良木町、上村及び上球磨消防組合) 河川情報センター専用端末装置設置、業務開始 	4 チェルノブイリ原発 爆発放射能漏れ事故 11 伊豆大島三原山噴火 災害
6 2 1 0	庁舎増築工事、通信機器移設工事完成 町村防災行政無線非常通報システム工事完成  ポンプ車を更新 	3 上海列車事故 (死 者 27名 負傷者 46名)
1 1	免田町防災行政無線非常通報システム運用開始	
6 3 3	岡原村、須恵村防災行政無線非常通報システム運用開始	九州縦貫道肥後トンネル貫通

年 月	消 防 組 合 の 沿 革	社 会 の 出 来 事
元	4 深田村防災行政無線非常通報システム運用開始 5 上村防災行政無線非常通報システム運用開始	
	2 組合長に那須孝人氏就任 6 事務連絡車を配置 予防広報車を更新	1 元号を「平成」と改号 9 多良木町役場庁舎落成 12 九州縦貫道八代一人吉間開通
	 	
	7 湯前町防災行政無線非常通報システム運用開始 9 水槽付ポンプ車を寄贈更新	
		
	2 水上村防災行政無線非常通報システム運用開始	10 須恵村23年間無火災ストップ
	3 6 交替制勤務を二部制から三部制へ移行 7 岩下兄弟合資会社から人員搬送用マイクロバスを寄贈配置	1 湾岸戦争勃発 6 長崎県普賢岳で大規模火砕流が発生(死者・不明者31名) 9 台風19号襲来。日本全国に記録的な被害
		
	4 管内町村の緊急通報システムを消防本部にセンター化、運用開始	7 北海道南西沖地震(M7.8) 死者不明者231名
		
5	1 救助工作車Ⅱ型を配置 3 味岡建設株式会社から高規格救急自動車を寄贈、配置	8 南九州に記録的な集中豪雨 鹿児島シラス台地帯に多大な被害
	 	11 九州自動車道加久藤トンネル貫通
10	非常電源用自家発電装置を更新整備	

年 月		消 防 組 合 の 沿 革	社 会 の 出 来 事
6	4	多良木町防災行政無線非常通報システム運用開始	6 松本サリン事件 死 者 7名 中毒者 79名
	6	宮崎県椎葉村、水上村及び上球磨消防組合において、火災及び救急業務相互応援協定締結	
	1 1	2 0 周年記念式典（多良木町民体育館） 	
7	3	消防緊急指令装置Ⅰ型設置 	1 阪神淡路大震災（M 7.3） 死者不明者 6,433名 負傷者 43,792名
8	8	岩下兄弟合資会社から指令車寄贈更新 	2 北海道余市町 豊浜トンネル岩盤崩落事故 死者20名
9	4	宮崎県西米良村、水上村・湯前町・多良木町及び上球磨消防組合において、火災・救急業務相互応援協定締結	3 茨城県東海村 動力炉核燃料再処理施設火災37名被爆
1 0	3	熊本県農業共済協同組合連合会から救急車寄贈 救急 2 号車更新 	
1 1	8		8 不知火町松合地区で高潮災害 死者12名
1 2	2	消防ポンプ自動車を水槽付に更新（ポンプ自動車は予備車に） 	7 東京都・伊豆諸島三宅島噴火と群発地震

年 月	消 防 組 合 の 沿 革	社 会 の 出 来 事
1 3	7 指導広報車更新 防災ヘリ運用開始 	9 ニューヨーク世界貿易センタービル同時多発テロ死者・不明者 2,823名
1 4	1 社団法人日本損害保険協会から消防ポンプ自動車を寄贈配備 	1 球磨村 小型セスナ機墜落死者 1 名
	9 上球磨メディカルコントロール協議会設置	7 水俣市宝川内集地区及び深川新屋敷地区で土石流災害死者 19名
1 6	6 上球磨消防組合分署設置協議会設立 8 ユニック付き 3 t トラック配備 	5 拉致被害者の蓮池さん、地村さん夫妻の子供 5 人が帰国
	1 1 消防組合実働30周年記念大会（於：せきれい館）	8 湯前町猪鹿倉で台風 16号による豪雨のため219号線崩落 湯前町で水道送水管断裂のため断水
1 7	2 組合長に松本照彦氏就任 3 高規格救急自動車配備（社団法人 日本損害保険協会寄贈） 	10 10月23日午後5時56分ごろ新潟県中越地方を震源とするマグニチュード6.8の地震発生。40人死亡、負傷者は約3000人
	7 上球磨消防組合分署設置場所選定会議	4 尼崎の J R 西日本脱線事故107人死亡、約550人が重軽傷
		11 マンションなど耐震強度偽造 千葉県の一級建築士がマンションなどの構造計算書を偽造

年 月		消 防 組 合 の 沿 革	社 会 の 出 来 事
18	3	消防広域再編会議 東分署造成工事現場説明会（管内業者10社） 東分署造成工事入札（水上役場）武田建設落札	5 ジャワ島で大地震 約6000人死亡
	4	職員11名採用	
	7	東分署建設起工式 東分署上棟式	8 飲酒運転の悲惨な 事故が多発 厳罰化の動き(福岡)
	10	東分署開署式 	
		消防救急無線デジタル化推進協議会	
19	2	消防救急無線デジタル化推進協議会	
	6	水槽付ポンプ車入札会	
	7	東広報車寄贈 	
		11 県大規模災害対応訓練 （湯前町グリーンパレス） 	
20	1	水槽付消防ポンプ自動車更新 	1 冷凍ギョーザ、汚染 米転売など食への不 安さらに高まる 中国製冷凍ギョーザ を食べた10人の中 毒症状が発覚
	11	消防指令システム中間検査（岩手県一関市）	4 75歳以上の高齢者を 対象にした後期高齢 者医療制度が4月か ら始まった
21	3	消防指令システム整備事業落成 	3 地方の高速道路がE TC利用で土日祝日、 千円で乗り放題
	12	救助工作車入札会	5 新型インフルエンザ が大流行 死者も増加
22	2	救急1号車更新 	8 裁判員裁判がスタート

年 月	消 防 組 合 の 沿 革	社 会 の 出 来 事
2 3	6 第4回城南ブロック消防広域化協議会幹事会（八代広域鏡消防署） 仮眠室改修工事入札会（武田建設落札） 8 救助工作車更新 	4 宮崎県で口蹄疫の被害が拡大、全国を震撼
	3 緊急消防援助隊東北地方太平洋沖地震一次派遣（7名）仙台市 緊急消防援助隊東北地方太平洋沖地震二次派遣（6名）仙台市 	3 東日本大震災、東電福島第一原発事故 5 米特殊部隊がビンラディン容疑者を殺害
	5 熊本県消防救急デジタル無線基本設計実施協議会第3回専門部（消防局） 10 第1回消防救急デジタル無線打合せ会議（消防学校）	12 北朝鮮の金正日総書記が急死、世界に波紋 69歳、急性心筋梗塞
	2 4 1 熊本県ドクターヘリ運航開始 5 東ポンプ車更新（旧 東ポンプ車は予備車に） 	
	7 九州北部豪雨緊急消防援助隊派遣（阿蘇市7名出動）	
2 5	2 新マイクロバス納車 	
	10 消防救急デジタル無線実施設計完成	
2 6	6 新事務車（カローラフィルダー）納車  熊本県消防救助技術大会（水上の部）において榑木班・郷消防士 全国大会出場（8月20日、広島市で土砂災害発生のため、大会中止）	8 広島市で土砂災害発生 多数の死傷者、行方不明者発生



編集後記

昭和49年10月から業務を開始して40年という節目を迎え、記念行事の一環で「あゆみ」として年報形式で発行しました。作成にあたっては、限られた時間での作業であり、全てを掲載できておりませんが、御一読のうえ、当組合の歴史に触れていただければ幸いです。

近年では、共に歩んできた本部庁舎の耐震問題が浮上するなど、いくつかの課題を抱えております。40周年を契機にし、地域の安全を確保するため、また、組合発展のため、職員一丸となって取り組んでいくことを新たに決意したところです。（F）